

宮下の 水神待

すいじんまち

宮下の皆さんは毎年十月二十七日になると宮下神社に集まり、共同炊事した食事をとりまします。この行事を水神待といい、地元の三国市太郎さんが由来を語ってくれました。

水害に耐えた祖先

古い書物によれば、宮下には約八百年前から集落があつたとされています。富土川は今でこそおとなしい川ですが、昔は大変な暴れん坊で、宮下を初め富土川東岸地区の歴史や人々の暮らしは、絶えず水との戦いでした。江戸時代に入り、かりがね堤が完成してからは水害は少なくなつたものの、それでも、



昭和六十三年十二月五日号

明治に入ってから二年・十五年・二十九年・四十二年に大水害がありました。特に四十三年八月の大水害は、全戸がほとんど全滅するという大災害でした。

人々は、そのたびに強い意志で復旧に努め、現在の街の基礎ができていきました。

水神様を祭る

毎年十月二十七日に行われる水神待は、こうした多くの試練を乗り越えてきた祖先の生活の中から生まれた行事です。人々は神社に水神様をお祭りし、水難を逃れるよう祈念する一方で、一年の無事を感謝するものです。

夕食をみんなで食べる

また、おそらく祖先は水害にあつたとき宮

下神社に避難し、寝食を共にして励ましあつたのでしよう。そんな名残が、今でも水神待になると、当番班がつくつたけんちん汁とお茶飯の夕食を、めいめいがはし・茶わんを持参してみんなで食べます。ことしも子供からお年寄りまで二百五十人が参加しました。大勢で食べるけんちん汁の味は最高で、今では地域のコミュニティシヨンの場としても大事な行事になっています。



宮下神社の水難記念碑